実地研修用評価票（R６より改定）

＜ 評価票１：口腔内の喀痰吸引（通常手順） ＞

【記入例】赤字が記入例です。この例では、１回目に No.11 を抜かしたため「イ」、２回目・３回目は全項目「ア」です。全項目で「ア」が２回続いた３回目の日（11 月 14 日）が修了日です。様式２の修了日欄に記入してください。

受講者氏名	見本　花子	受講番号	R8-001	利用者氏名	見本　一郎

達成度		
	ア．１人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	イ．１人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ．１人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。	エ．１人での実施を任せられるレベルにはない。

				回　数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
				月　日【必須】	11/10	11/12	11/14	／	／
				※各行為ごとの開始時間を記入して下さい　時　間【必須】	10:00	10:00	14:00	：	：
実施手順		評価項目	評価の視点		評価				
実施準備	1	流水と石けんで、手洗いをする。	・外から細菌等を持ち込まない。		ア	ア	ア		
	2	医師の指示書を確認する。	・ここまでは、ケアの前に済ませておく。		ア	ア	ア		
	3	対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。			ア	ア	ア		
実施	4	吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	・「痰がゴロゴロ言っているので吸引してもよろしいでしょうか」などと説明し、同意を得たか。		ア	ア	ア		
	5	吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	・環境の調整及び効果的に喀痰を吸引できる体位か。		ア	ア	ア		
	6	口の周囲、口腔内を観察する。	・喀痰の貯留、出血、腫れ、乾燥などのチェックをしたか。		ア	ア	ア		
	7	流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	・吸引前の手洗いを行っているか。		ア	ア	ア		
	8	使い捨て手袋をする。場合によってはセッシを持つ。	―		ア	ア	ア		
	9	吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	・衛生的に、器具の取扱いができているか。 ・吸引カテーテルの先端をあちこちにぶつけていないか。		ア	ア	ア		
	10	吸引器のスイッチを入れる。	―		ア	ア	ア		
	11	決められた吸引圧になっていることを確認する。	・吸引圧は 20 キロパスカル以下に設定されているか。		イ	ア	ア		
	12	【乾燥法の場合】吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 【薬液浸漬法の場合】吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	・衛生的に、器具の取扱いができているか。		ア	ア	ア		
	13	吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	・よく水を切ったか。		ア	ア	ア		
	14	吸引開始の声かけをする。	・必ず声をかけて、本人から同意を得る。		ア	ア	ア		
	15	適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で口腔内を吸引する。	・静かに挿入し、適切な吸引時間で喀痰を吸引できたか。 ・適切な長さをこえて挿入していないか。		ア	ア	ア		
	16	対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	・喀痰がとり切れていない場合は、もう一回繰り返す必要性について確認しているか。		ア	ア	ア		
	17	吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	・外側に喀痰がついた吸引カテーテルをそのまま洗浄水等に入れて水を汚染していないか。 ・接続管に喀痰が残っていないか。 ・吸引カテーテル内に喀痰が残っていないか。		ア	ア	ア		
	18	非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	・吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消す。		ア	ア	ア		
	19	【単回使用の場合】吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 【乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合】吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	・衛生的に操作できているか。		ア	ア	ア		
	20	手袋をはずす。セッシを使用した場合は元に戻す。	・衛生的に操作できているか。		ア	ア	ア		
	21	対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	・吸引終了を告げ、喀痰がとり切れたかどうかを確認しているか。		ア	ア	ア		
	22	体位や環境を整える。	・安楽な姿勢に整え、環境の調整を行ったか。		ア	ア	ア		
	23	対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。 （経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないか確認する。）	・苦痛を最小限に、吸引できたか。 ・対象者の状態観察を行えているか。		ア	ア	ア		
	24	流水と石けんで、手洗いをする。	・ケア後の手洗いを行ったか。		ア	ア	ア		
報告	25	指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ･ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	・吸引の開始時間、吸引物の性状・量、吸引前後の対象者の状態等を報告したか。 ・ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、報告したか。		ア	ア	ア		
片付け	26	吸引びんの廃液量が 70～80%になる前に廃液を捨てる。	・吸引びんの汚物は適宜捨てる。		ア	ア	ア		
	27	保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	・洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、セットごと取り換えているか。		ア	ア	ア		
記録	28	実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	―		ア	ア	ア		
				アの個数	27個	28個	28個	個	個
※ 手引きの手順を抜かしたり、間違えた内容を具体的に記述してください。評価がイ、ウ、エの場合、その理由を具体的に記述してください。 **（例）１回目：No.11 決められた吸引圧になっていることの確認を抜かした（イ）。実施後に手順を確認し、指導した。**									

留意点・特記事項	【基本研修（現場演習）の実施状況について】
※ 特定の対象者における個別の留意点（良好な体位やＯＫサイン等）について、把握した上でケアを実施すること。 ※ 実際に評価票を使用する際は、各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。 【変更点及び変更理由】	実地研修を行う前に、利用者が使用している器具・機材等を用いて実施手順に従って繰り返し演習を行い、一連の手技が「手順どおりに実施できている」と確認しました。
	指導看護師の所属事業所名：**○○訪問看護ステーション**
	指導看護師（署名）：**見本　看子**